

## ▶ 国際公文書館会議東アジア地域支部（EASTICA） による展示会への出展参加

八日市谷哲生  
国立公文書館

今回の ICA クアラルンプール大会（平成20年7月22日～25日）においては、国際公文書館会議東アジア地域支部（EASTICA）初の取り組みとして、総会、セミナー等とともに開催される展示会へ、EASTICA 加盟の国立公文書館等が協力して参加し、EASTICA ブースを構えることとなった。

当館からは、国立公文書館デジタルアーカイブ及びアジア歴史資料センターのポスター、去る6月9日に催された「国際アーカイブズの日」ポスター等を展示、来場者に対しリーフレット等の資料配布を行い、我が国における様々な取り組みについて来場者に紹介した。

また、EASTICA メンバーの一員として、EASTICA 加盟国の国立公文書館等職員らと協力しながら、東アジアにおける公文書館等の状況などに関する来場者らの問い合わせに対応した。

展示会会場は、セッションが開かれるセミナールーム、参加者がメールチェックなどに利用するインターネット・コーナーに隣接した大ホールに設けられた。展示会出展者は、それぞれのスペースを活用し、ポスターを展示、配布物を陳列するなどして、来場者を迎えた。中でも、今大会のホスト国であるマレーシア、次回大会の開催が決まっているオーストラリアの国立公文書館などが大規模な展示ブースを設営していた他、レコード・マネジメントのコンサルティングやデジタル化機器を扱う企業など、民間からの参加も数多く見られた。

EASTICA ブースにおいては、加盟国の国立公文書館等が協力し、ポスターを展示、資料配布な

どの活動を実施。我が国をはじめ、韓国や香港、モンゴルなどからのスタッフが、交代でブースに詰め、来場者への対応にあたった。来場者は、世界各国から参集しており、必ずしもアジアのアーカイブズ事情について十分な知識を持ち合わせていないことも多く、ブースでの展示は、そうした人々に対しアジアのアーカイブズについて幅広く紹介する機会となった。

さて、ブースに詰めていると、他国の公文書館関係者らが、EASTICA 加盟国の公文書館へのコンタクトを求め、担当者を紹介して欲しい、或いは、香港大学との共催で行われている既卒者向けアーカイブ学講座について、参加費用はいくらか、どういった講義内容なのかと、詳細な説明を求めてくるなど、細やかな対応が求められることもあった。EASTICA 初の試みとなった展示会出展は、加盟各国の公文書館等の紹介に止まらず、大会期間中、東アジアのアーカイブズに関する「よろず相談窓口」として多くの参加者に利用され、情報や人をつなぐ東アジアの架け橋の案内所として機能したと言えるだろう。東アジアのみならず、グローバルに情報と人の連携を組み上げていくことにつながるこうした取り組みを、今後も続けていくことが期待される場所である。



EASTICA ブースでマレーシア文化芸術遺産大臣（左端）を迎える菊池館長



来場者が集まるブースの様子



ブースでの意見交換



大会ホスト国、マレーシア国立公文書館の展示ブース